

第2期長岡市子育て・育ち“あい”プラン（素案）への子ども・子育て会議委員からの意見等に対する回答

No.	ページ・行 事業番号	要望等	長岡市の回答	担当課
1	P23 7行目	基本目標1 これまでの評価 ・子どもたちが家庭を持ち子育てを行うことについて、意義のあることだと感じ、ライフプランとして結婚、子育てを考えるよう取り組んでほしい。	P71「次代の親となる世代への支援」において、結婚や子育てを含む将来のイメージや希望が持てるような取組みを今後も引き続き充実させていくとともに、新たな取組みも検討していきたいと考えています。	子ども家庭課
2	P44 1-1-2	保育園の民営化 ・公立保育園の民営化については、園舎の老朽化も目立ち、需要とのズレもあると思うので、統廃合も含めて検討をお願いしたい。	施設の老朽化や地域の保育需要などについて様々な視点から検証し、長岡市全体の保育施設の適正配置を民営化や統廃合といった手法をもって検討・実施していきます。	保育課
3	P44 1-1-2	保育園の民営化 ・保育園を民営化することで本当に充実されるのか少し疑問。民営化されても、きちんとチェックインをして、適切な保育が実施されているか確認してほしい。	公立保育園の良い点をしっかりと受け継ぎながら、私立の柔軟性を活かした保育運営が行われるよう、保育課職員並びに公立園長経験者等が定期的に園を訪問し確認・指導していきます。	保育課
4	P46 1-2-1	保幼小の連携の充実 ・年長児の段階で園児の情報交換ができるとよい。	今年度、保幼小連携ワーキング部会を開催し、長岡市の保幼小連携の考え方について検討してきました。今後、現場に対して、小学校と園の相互理解に向けた活動例を提示し、できる範囲での実践をお願いしていきたいと考えています。	保育課
5	P53 1-4-6 1-4-17 P83 3-2-6	子どもふれあいサポート事業、子ども青少年相談センターの開設・運営、子どもサポートコール ・上記3つの事業のそれぞれの方策は理解できるが、現場の運用において混乱が生じないように統一事業とするか、運用面で分かりやすい業務分類にした上で展開してほしい。	子ども・青少年相談センターにおいて、子どもサポートコールを運用します。子どもふれあいサポート事業は、適応指導教室やサポートチームの運営など、子ども・青少年相談センターと密な連携を図り進めてまいります。	学校教育課 青少年育成課
6	P54 1-5-2	こどもすこやか応援事業 ・こどもすこやか応援事業はニーズが高いため担当職員の増員をお願いしたい。	増員は適宜行っています。園支援のみの場合は、相談申込み後、早急に訪問を実施することが可能になっており、また、ケースの緊急度や重篤度に応じて頻回に訪問を実施しています。保護者面談の要望がある場合は、保護者にも日程調整していただくため、申込みから訪問までに時間を要することをご理解いただきたいと思います。	子ども家庭課

No.	ページ・行 事業番号	要望等	長岡市の回答	担当課
7	P54 1-5-2	<p>こどもすこやか応援事業</p> <p>・すこやかファイル所持数（未就学児）の目標設定はあるが、就学後の児童生徒も進学や相談支援の中で必要となるため、所持数と目標値を記載してほしい。</p>	<p>こどもすこやか応援事業は、発達に不安がある未就学児を対象にしている事業であるため、ここには就学後の児童のファイル所持数は記載していませんが、基本的に未就学の段階でファイルを所持した児は、就学後も引き続き所持し、相談支援等で活用しています。なお、就学後に新たにすこやかファイルを所持した児童生徒は令和元年度現時点で52件となっています。</p>	子ども家庭課
8	P 55 1-5-3	<p>ながおか子どもの発達ガイドブックの発行</p> <p>・子育ての駅や市の窓口等で配布しているが、児童発達支援センターの利用者にすべて配布されているのか。せっかく作ったガイドブックが必要な方に行き渡るようにしてほしい。</p>	<p>当ガイドブックは、すでに支援につながっている方はもちろん、お子さんの発達に心配があり悩んでおられる保護者の方が手に取っていただけるよう、各子育て支援施設や長岡療育園通園センター等の障害児通所支援施設、障害者支援センター、障害福祉サービス施設など約380か所に配布しております。部数に限りがあり、児童発達支援センターの利用者すべてには配布しておりませんが、行政窓口においては、発達に心配のあるお子さんの保護者など、必要な方に説明しながらお渡しするなど活用しております。</p> <p>市のホームページに掲載もありますが、今後は更にガイドブックが広く周知できるよう、QRコードの読み取りやホームページURL記載の周知ポスターを作成するなど、冊子以外の方法の周知方法も検討したいと考えています。</p>	子ども家庭課
9	P 59 1-5-14	<p>精神疾患に関する医療費助成</p> <p>・小児神経科（療育園）で問題行動を抱える子どもについても対象となるはずだが、周知されておらず利用児が少ないままである。子どもの医療費助成の対象年齢が拡充されたため必要な児は減っているかもしれないが、必要な家庭もあると思うため周知してほしい。また、計画に「周知する」の文言を入れてほしい。</p>	<p>必要な家庭に助成できるよう、積極的に制度の周知に努めます。また、計画についても、「周知する」の文言を明記します。</p>	福祉課
10	P68 1-9-10	<p>子ども食堂運営費補助金</p> <p>・子ども食堂の補助金は大変ありがたい。また、立ち上げにあたって既存の子ども食堂からの助言やサポートが得られる仕組みを作してほしい。</p>	<p>子ども食堂同士のネットワーク作りがすでに行われています。市では引き続き、補助金交付をはじめ、情報提供や相談対応など、後方支援を行っていきます。</p>	子ども家庭課

No.	ページ・行 事業番号	要望等	長岡市の回答	担当課
11	P68 1-9-10	<p>子ども食堂運営費補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂は、貧困対策、孤食対策、コミュニティづくり、教育効果など大きな可能性があると思う。5万円は少ない印象があったので、団体からの声や、かかる費用の実績、他地域などの事例を参考に増やせるようであれば増やした方がよいと思う。 	<p>当補助金は、子ども食堂の立ち上げだけでなく、運営にかかる経費に利用できるものとして毎年の申請が可能であり、各運営団体から大変喜ばれています。子ども食堂へは、企業、団体、個人等からの寄付や食材提供などもあることから、増額は考えておりませんが、子ども食堂への支援や連携については、今後も検討していきます。</p>	子ども家庭課
12	P 68 1-9-11	<p>子どもの学力アップ応援事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習塾への送迎さえ難しい支所地域への対応を考えていただけるとありがたい。 	<p>当事業は、登録のあった学習塾の利用を対象としていますが、支所地域の学習塾の登録増加に努めます。</p>	子ども家庭課
13	P 74 3-1-6	<p>妊産婦・新生児訪問指導事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 出生数からすると1人あたり2回の訪問かと思うが、妻がこの訪問を楽しみにしており、わからなかったことが聞けて良かったことと、それ以上に精神衛生上よかったのが、現在の2回の訪問から3回に増やし、離乳食が始まる頃に訪問してもらえるといいと思う。 訪問事業は家庭環境まで把握できるのが強みであるため、調査目的をオープンにし、虐待や貧困対策の施策に紐づけしていくと効果的だと思う。 	<p>新生児訪問は、新生児の発育、栄養、生活環境、疾病予防など育児上重要な事項の指導を目的としています。新生児訪問は生後28日以内実施し、長岡市では助産師が訪問しています。訪問で把握した状況については、虐待や貧困対策の施策につなげていきますので、今後も継続していきます。</p> <p>現在長岡市では、離乳食が始まる頃に赤ちゃん相談（対象5～7か月）や離乳食教室を実施しています。また子育ての駅や母推活動でも離乳食講座を実施しています。離乳食教室や講座は、栄養士が行っていますので、より専門的な指導を受けることができます。</p>	子ども家庭課
14	P 75 3-1-9	<p>乳児家庭全戸訪問事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問をした後、どう活かすかの記載がないため、「必要な支援につなげます」などの文言を入れてほしい。支援が必要な母子がままりらなどを優先的に使えるようにサポートしてほしい。 	<p>ご指摘のとおり、「必要な支援につなげます」と修正します。現在も支援が必要な母子にままりらやままナビ、子育ての駅などを紹介していますので、継続していきたいと思えます。</p>	子ども家庭課
15	P 77 3-1-11	<p>産後デイケアルーム ままりら</p> <ul style="list-style-type: none"> 休養を取れる時間を延長するのはいいと思うが、20時までの時間でどこまで需要があるのか疑問に思う部分がある。事業を実施していく中で、必要な事業なのか判断して行ってほしい。 	<p>夕方になると子どもの泣きで不安が強くなる母、夫の帰りが遅く夕方の支援が得られず孤独感を感じる母からの要望があり、実施するものです。ご指摘のとおり、事業を実施していく中で、必要な事業かどうか見極めたいと思えます。</p>	子ども家庭課
16	P 78 3-1-13	<p>産後ケア事業（宿泊型）</p> <ul style="list-style-type: none"> 世田谷区のように病院ではなく、産後ケア施設として、ままりらのようなところで宿泊できたら理想的だと思う。 	<p>市内には病院以外の宿泊施設で、産後ケアを実施する要件が整った施設がないため、委託医療機関での実施としています。</p>	子ども家庭課

No.	ページ・行 事業番号	要望等	長岡市の回答	担当課
17	P79 3-1-16	予防接種事業 ・定期予防接種が、子どもの病気等で期間内にできなかった場合は、主治医の判断で期間外でも実施可能であることを最初に伝えてほしい。	出生時に配布する予防接種手帳にて長期療養のための予防接種について記載し周知しています。また、実施医療機関に向けては毎年実施要領等に明記し、該当者へ案内するよう依頼しています。	子ども家庭課
18	P81 3-2-1	地域子育て支援拠点事業 ・子育ての駅と保育園併設の子育て支援センターについては、利用実態が少ないところも出てきているため、適正な配置を検討してほしい。	子育ての駅は、今後も市民のニーズや地域の実情を捉え、特色を活かした運営を検討していきます。保育園併設の子育て支援センターについて、利用実績が少ない場合は、ニーズそのものが少ないのか、利用しにくいのか等を調査した上で、適正な配置を行っていきたくと考えています。	子ども家庭課 保育課
19	P81 3-2-1	地域子育て支援拠点事業 ・妊娠中に支援センターに行くにはハードルが高いと感じるため、妊婦向けにコンシェルジュと一緒に支援センター巡りなどのイベントがあると、コンシェルジュや支援センターともつながるきっかけになると思う。	子育ての駅では、妊婦のうちから子育ての駅を利用を促すため、マタニティ向けのヨガ教室やおしゃべり会などを企画し、好評をいただいています。また、母子手帳交付時に、子育ての駅における妊婦向けイベント等についてまとめたチラシも配布し、利用を促しています。	子ども家庭課
20	P84 3-3-1	パパママサークル事業 ・おむつ交換や沐浴だけでなく、1日の流れや過ごし方などを教えてもらえると赤ちゃんとの生活を想像しやすい。 ・働いている人が多いと思うので、もっと回数を増やすと参加できる機会が増えると思う。 ・パートナーに妊婦体験をしてもらうのも大切だが、出産後の母親の身体の状態やホルモンのことなどを話してもらえるとありがたい。	パパママサークルは、働いている方も参加しやすいよう、金曜夜間と土曜午前を実施しており、参加者が定員に満たない日程もあるため、令和2年度においても、現状どおり実施します。また、出産後の母親の心身やホルモンバランスによる変化に関する話は、すでに実施しておりますので、今後も継続します。 パパママサークルに参加する妊婦さんの体調を考え、2時間という限られた時間の中で、参加者のニーズに対応した内容を、今後も行いたいと思います。	子ども家庭課
21	P103 5-2-8	トワイライトステイ事業 ・障害児のショートステイが現在、重心の療育園しかないので、障害児について小学生、中学生まで拡充できないか。難しい場合は同等の代替の預かり事業を整備してほしい。	今後実施する予定のトワイライトステイ事業においても、障害児の預かりを含めて検討していきたいと考えています。	保育課

No.	ページ・行 事業番号	要望等	長岡市の回答	担当課
22	P171	<p>1 相談窓口の充実・連携</p> <p>・令和元年12月会計検査院「待機児童解消、子どもの貧困対策等の子ども・子育て支援施策に関する会計検査の結果について」によると、「子どもの貧困対策において、福祉部門と教育委員会・学校等との連携強化を図るために重要な役割を果たしているSSWについて、23都道府県及び42市における活動状況をみたところ、福祉部門等との情報共有に頻度が高いと思料されるSSWほど貧困家庭の子どもなどを福祉支援につないだ実績の割合が高い傾向や、加配されたSSWの方が貧困相談に関して1人当たりの解決等件数が多くなっている状況が見受けられた。</p> <p>文部科学省において、子どもの貧困対策等を効果的に推進していくために、SSW加配の内容や趣旨等を実施要領等に明記するなどした上で、SSWと福祉部門等との連携推進やSSW加配の効果的な活用方法等について、事業主体に周知、助言等を行うこと」とされている。国の動向を注視しながら、相談窓口の充実・連携を強化していただきたい。</p>	<p>子どもナビゲーターや福祉部門がSSWと連携することで、より貧困問題の解決につなげることができると考えており、「ふれあいネットワーク会議」等で連携しています。また、随時子どもナビゲーターは学校と情報を共有し、必要に応じて学校に出向き、支援が必要な家庭への働きかけを実施しており、今後、直接SSWと連携する機会が増えていくと考えられ、貧困対策を効果的に進めていくことができると考えています。</p>	子ども家庭課
23	P172	<p>(1) 学校等における理解促進</p> <p>・対象に認定こども園、保育園、幼稚園も加えていただきたい。愛知県豊橋市では、市内の認定こども園、保育園、幼稚園の職員向けに、子どもの貧困対策をまとめた冊子を作成している。</p>	<p>認定こども園、保育園、幼稚園にも子どもナビゲーターが訪問し、情報共有、連携を図っていることから、「学校等」を「学校、保育施設等」に修正します。</p>	子ども家庭課
24	1-5-4関連	<p>「総合支援学校の教育環境の整備」の項目を作り、十分な教室と環境を整備してほしい。6年間のうちに実施してほしいので、今回の計画に盛り込んでほしい。</p>	<p>総合支援学校の環境整備については、教室面積に定められた基準がないため、これまで児童生徒数の見通しをふまえて学校と丁寧に協議を行ってきました。今後も学校と十分協議して必要な施設整備をしていきます。</p>	教育総務課 教育施設課
25	全体	<p>実施する各事業に携わる方々のモチベーションのためにも、待遇について考えてほしい。</p>	<p>本計画に関わらず、全体に関わることなので参考意見とします。</p>	子ども家庭課